

新刊図書がたくさん入りました。本を読んで教養を高めるのも、よい余暇になるのではないですか。

()は著者名

▽医療を裁く(藤林貞治)▽悪の管理(川上哲治)▽夜光の階段(上・下)(松本清張)▽本覚坊遺文(講談社)▽ひと粒(野村誠一)▽雨が好き(高橋洋子)▽雑学おもしろ読本 ▽流離譚(上・下)(安岡章太郎)▽私の台所(沢村貞子)▽死仮面(横溝正史)▽太陽の世界(上下)(半村良)▽核は持ち込まれたか(古森義久)▽悪魔の飽食(森村誠一)▽ゆれる24歳(下重暁子)▽新聞のことは事典(朝日新聞社編)▽英語を実用的に使う本(森喬伸)▽黒革の手帳(上・下)(松本清張)▽恐怖の金曜日(西村京太郎)▽大人の女が美しい(長沢節)▽プロジェクト910(宗田理)▽蒲田行進曲(つかこうへい)▽冬の派閥(城山三郎)▽時の群像(上・中)(堺屋太一)▽犬養毅と青年将校(戸川猪佐武)▽機雷(光岡明)▽富と貧困(Gギルゲー)▽第三の波(Aトフラー)▽巨大穀物商社(ダンモーガン)▽夜間飛行(黒岩重吾)▽みな殺しの歌(大森春彦)▽金曜日の女(笹沢左保)▽断崖の愛人(笹沢左保)▽三種の神器殺人事件(笹沢左保)▽男の報酬(清水一行)▽死体置場で夕食(赤川次郎)▽家路の果て(夏樹静子)▽よろしく愛して(高橋三千綱)▽今日は再び来らず(城山三郎)▽公園通りの午後(渡辺淳一)▽娘と私のアホ旅行(佐藤愛子)▽スポーツ激戦術(岸本健)▽まじめなオチンチンの話(矢島味夫)▽風の爪あと(小島直記)▽恋歌(五木寛之)▽まぼろしの城(池波正太郎)▽完全犯罪の座標(森村誠一)▽ぼくらの気持ち(栗本薫)▽ガン病棟の99日(児玉隆也)▽人間ざらい(田辺聖子)▽無法ボリスとわたりあえる本(千代丸健二)▽京都よわが情念のはるかな飛翔を支えよ(松原好之)▽五十両の夢▽大河の一滴(大森黎)▽我らが仲間(高橋三千綱)▽口笛をふく時(遠藤周作)▽京まんだら(上・下)(瀬戸内晴美)▽日本の鳥々昔と今(有吉佐和子)▽啄木の妻(上中下)(渡辺喜恵子)▽事件に生きた女たち(渥美雅子)▽相死相愛(森村誠一)▽悪意のきればなし(生島治郎)▽電々公社悪の構図(郡司和夫)▽誘惑者(高橋たか子)▽社会党の秘密(高橋正雄)▽湯・ゆ・ユ(久野四郎)▽密航船水安丸(新田次郎)▽海に降る雪(畑山博)▽女弁護士雅子の目(渥美雅子)▽中年ちやらんぼらん(田辺聖子)▽ドラマ人間テレビ物語(和田勉)▽二万時間の男(西村寿行)▽ハンソン阿呆に候(イーデスハンソン)▽愛の動物家族(中川志郎)▽優しい密室(栗本薫)▽ぼくらの時代(栗本薫)▽喜多郎(喜多郎)▽けものたちの祝宴(西村京太郎)▽国会議事堂殺人事件(斎藤栄)▽処刑台の昏き祭(勝目梓)▽その傷口を刃で飾れ(勝目梓)▽魔の視聴率(福本和也)▽お母ちゃんはうさぎ(吉岡たすく)▽お母ちゃんあきらめないで(吉岡たすく)▽海を感じる時(中沢けい)▽子育てごっこ(三好京三)▽冷蔵庫より愛をこめて(阿刀田高)▽渡された場面(松本清張)▽回帰線に吼ゆ(西村寿行)▽メディアスの恋人(筒井康隆)▽傭兵たちの挽歌(大森春彦)▽将棋入門(二上達也)▽革細工(谷保仁)▽新頭の良い税金の本(野末陳平)▽ギネスブック82▽趣味の酒つくり(笹野好太郎)▽めがねうさぎ(せなけいこ)▽先生のつうしんぼ(宮川ひろ)▽車のいろは空いろ(あまみきこ)▽ねしょんべんものがたり(椋鳩十)▽さとのじてんしゃ(大石真)▽コンバきつねの大脱走(武井博)▽あいうえおさま(寺村輝夫)▽さだおぼさん(原田泰治)▽かいふつになっちゃった(木村泰子)▽さーかす1・2・3(やまもとりひさ)▽ことばのあいうえお(五味太郎)▽雪わらしうた(谷真介)▽幼稚園百科シリーズ▽七宝焼(佐野登志子)組みひも(岡村加代)▽折り紙全書(河合豊)

トピックス 新刊図書



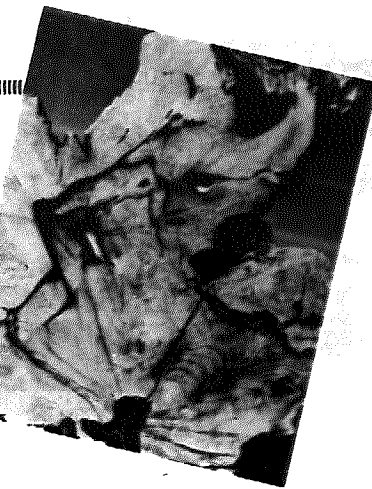
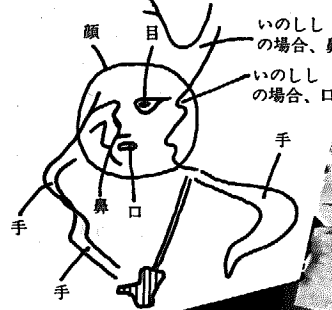
▲初めてでも一人で
暖かな春の陽ざしを感じさせた3月28日(日)、黒崎春季オープンゲートボール大会が開かれました。この大会、初めてでも一人でもをモットーにだれでもが気軽に参加できるオープン大会です。勝敗も関係なく、運営もCPクラブと大明団地の愛好者が中心でした。朝から始まった大会は、昼すぎから「聴きつけてやって来た」人もいて約60人が参加して大盛況でした。



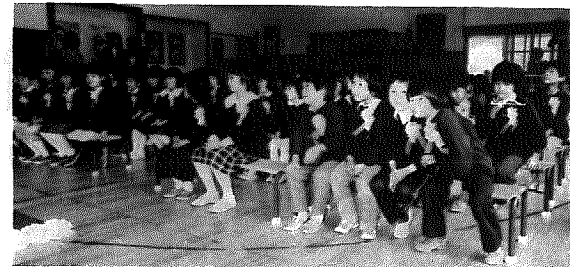
▲町の健康と衛生のために
3月18日(日)、栄養教室終了式が中央公民館で行われ、約60名の保健委員のみなさんが終了証書を手にしました。昨年4月から計14回にわたる講習が、この栄養教室であり、家庭看護、公衆衛生、食品知識、家庭料理などさまざまなことを勉強しました。
当日は最終日ということで、実際に自分たちで献立をし、調理をしました。健康はまず家庭の料理からということでしょうか。1年間の勉強を終えた保健委員の今後の活躍が期待されます。

ミスアンドミスターダンスクラブ会員募集。毎週木曜夜、体育館。お問い合わせは体育館へ(☎7-5211)

▶不思議な木の根に人の顔が？
写真をよくご覧下さい。木の根に何か見えませんか。そうです。人の顔があるのです。見方を変えろといのししにも見えます。
この不思議な木の根は現在、木場の満行寺にあります。以前は木場八割の松沢虎男さんが所有していたのですが、松沢さんが昨年十一月に亡くなられ、ご子息の助則さんが四十九日を機に満行寺に月斎贈されました。元は柿の木の根で七年前に家



の新築の際、作った飾り物だそうです。松沢さんは「何となく気持ちが悪くなったので...」。満行寺では「これだけハッキリと顔に見えるのもめずらしい。木の根全体のイメージは「阿修羅(あしゅら)」に似ていますね」と大事にしていくそうです。たしかに、「三センチ上下を切っていたら人の顔になっていなかったのですから、偶然といえども不思議なことが世の中にあるものですな。」



泣いて先生を困らせたことも「給食が一番楽しかったです。泣いて先生を困らせたこともありません。でももうすぐ一年生になります。一生懸命勉強して良い子になります」と全員でお別れのことばを合唱。
三月二十七日、町内八か所の保育所でいっせいに卒園式が行われ、ここ木場保育所では四十人のよい子が無事卒園の日を迎えました。

私の視点

町

長
夫妻 二 郎

世は情報化時代といわれている。テレビ、ラジオ、新聞、雑誌などのマスコミにより、家中にいながら世界の情勢がわかるようになった。
誠にありがたい時代となったが、報道される内容を見ると、相変わらず政治、経済、社会情勢は混とんとしているようである。
古今東西いついかなるときも適用できる言葉がある。それは、「世の中の万般の事柄は原因がないものはない。結果のないものもない。例えば、一國の治乱一家の興廢、一身の禍福、すべてそのとおりである。
恐れ、用心し、考えて、迷うことがないようにという教えが含まれているのである。しかし実際に迷ったたり、不幸に遭ったたりは、考えてみれば、他人ごとではなく、私自身がうでなかるうか。だから自身に厳しく言いかせ、「むち」打って努力しているつもりである。ただし、これらの努力に対しては自分で評価するものでなく、他人が評価してくれるものである。これが当然であり、民主主義の原点でなからうか。
さて、情報化時代といってもただ見たり、聞いたり、語ったりではロボットに等しい。人間

を動かす「心」が欲しい。真実と創造性豊かな愛情が必要だ。この愛とは、苦勞と努力の結果語らなくとも泉のほとりにじみ出てくるものであり、しかも人間相互に信頼し合えるものでなければならぬ。
こんなことを考えれば、考えるほどむづかしくなってしまうが、ちよつと見方を変えて結果で物事を考えず、原因で考えてみたらどうだろうか。
農家組合長会議の席上、とても建設的な意見が出たことがあり忘れたい。その内容が「本町をとり巻く厳しい農業状況を克服して町の特産を生みたい」と思い、計画し実践したのはいいが、天候に恵まれ大豊作となりすぎた。農産物は捨て値同然となつてしまった。翌年の作付計画を縮小せざるをえない原因よりも、捨て値になつたという結果を重視して作付を減らさざるをえなかつたのである。しかし、これではいつまでも地城特産物ができない」というのであった。
この例はほんの一例であり、他にもたくさんあると思う。原因や結果、さまざまな情報、それらは重要ではあるが、肝心なことは情報の真実性を採求し、情報はどう生かすかであろう。